ゆうことみゆきの
なるほど
アイヌ文化エッセイ

ソンコ de ソンコ

Vol.112

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

今月のテーマ

ウポポイ〜1周年〜

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)

ウポポイが開園一周年を迎えます。オープニングセレモニーまでの準備とテープカットからの一年を振り返ってみたいと思います。

昨年、本誌で「四月二十四日に開園」と紹介したウポポイは、今も世界中を震撼させている新型コロナウイルス感染症の影響で二度の開園延期を余儀なくされました。

延期後の私たちのミッションは、いかに来園者が安心してウポポイを利用できるかの対策を講じること。三密、ソーシャルディスタンスは耳タコですが、施設毎の予防ガイドラインに沿って対策を徹底しました。検温、手指消毒、マスク装着を基本に、対策にかかる物品調達からスタッフ手配、コミュニケーションの伴う展示や体験プログラムの見直し、オンライン予約システムの構築にマニュアル作成などなど、慌ただしく準備が進められました。また、ロールプレイング方式での全体リハーサルや白老町民を対象とした内覧会を実施し、確認された課題や要望を踏まえて、開園に臨むことができたのは大きな収穫でした。

オープン前日には、内閣官房長官や関係大臣などが出席し、開業記念式典が屋外のチキサニ広場でおこなわれ、七月十二日の開園セレモニーは感染防止のため非公開でしたが、早朝から多くの来園者が並び、北海道初の国立博物館の開設とアイヌの歴史、文化への興味関心の高さを改めて感じることができました。一方でウポポイへの入場と博物館展示室(毎時百名、十月より二百名限定)の両方を事前予約しなければならないという手続の煩雑さに、問い合わせが殺到し電話回線が繋がらないというトラブルや入園予約がとれないなどの苦情も…、大変ご迷惑をお掛けしました。

二〇二〇年度、ウポポイへの来園者は二十二万人を数えました。展示や体験プログラムに「また来たい」という多くの意見もあり、ウポポイがアイヌ文化の魅力に触れる新たな機会となる中、一方でヘイトスピーチや情報番組での差別報道などアイヌを巡る課題が多くあることもみえた一年でもあり、それにより心を痛める多くのアイヌがいることも事実です。ウポポイがアイヌの歴史や文化を共有し理解する場であり、アイヌの人々の心のより所となることを目的とする場として開設したことは今日的に意義のあることと改めて感じています。

イラスト/荘田悠人

次回のテーマは「ポンレ(あだ名)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間
JR白老駅から徒歩約10分

ウポポイPRキャラクター
「トゥレッポん」

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■荘田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。